

## 1 訓練評価の概要

### (1) 評価の目的

令和元年度富山県原子力防災訓練を通して、原子力災害発生時における国、地方公共団体等の緊急事態対応を評価し、防災体制の実効性の確認及び避難計画の検証並びに改善に資することを目的とする。

### (2) 評価の方法

令和元年11月4日（月・振替休日）及び17日（日）に実施された訓練を対象に、原子力防災に関する最新の知見を有している者による外部評価（第三者評価）及び訓練参加機関による自己評価を実施した。訓練項目別の評価の実施の有無を表1-1に示す。

本訓練の評価にあたっては、内閣府（原子力防災担当）が策定した「原子力防災訓練ガイダンス 訓練の企画、実施、評価及び改善のあり方（改訂案）」（平成31年3月）、「原子力防災担当者のための訓練実務マニュアル<総合防災訓練編>（試行版）」（平成31年3月）及び「原子力防災担当者のための訓練実務マニュアル<本部等運営訓練>（施行版）」（平成31年3月）を参考にした。

表 1-1 訓練評価の実施の有無

訓練項目名	自己評価	外部評価
①富山県現地災害対策本部及び志賀オフサイトセンター運営訓練	○	○
②緊急時通信連絡訓練	○	—
③原子力災害対策本部等の設置運営訓練	○	○
④緊急時モニタリング訓練	○	○
⑤住民等に対する広報訓練	○	○
⑥避難所の設置・運営訓練	○	○
⑦住民の屋内退避、一時移転訓練	○	○
⑧交通誘導・警戒警備訓練	○	—
⑨避難退域時検査の実施訓練	○	○
⑩安定ヨウ素剤の配布訓練	○	○
⑪被ばく医療措置訓練	○	○
⑫複合災害対応訓練	○	○

#### ア 自己評価

自己評価は、各訓練拠点で訓練直後に実施された訓練参加機関による振り返り等を基に、表1-2に示す実施結果調査票（記載例）を用いて、各訓練における「良好な事項」及び「課題」を抽出した。

表 1-2 実施結果調査票（記載例）

訓練種目	機関名	○良好な事項、●課題
(1) 富山県現地災害対策本部 及び志賀オフサイトセン ターの運営訓練	県防災・危機管理課	【記入例】 ○・・・が実施できた。 ●・・・の検討が必要と考える。

## イ 外部評価

外部評価は、各訓練拠点に外部評価員を配置し、訓練対象の活動を評価チェックシートに基づいて記録を行い、各訓練における「良好な事項」及び「課題」を抽出した。

外部評価の実施にあたり、表1-3に示す訓練拠点に外部評価員を11月4日の図上訓練は4名、11月17日の実動訓練は5名配置した。

表1-3 外部評価員の配置

訓練拠点	担当	評価対象とする訓練
志賀オフサイトセンター	DPSOL※	・富山県現地災害対策本部及び志賀オフサイトセンター（機能班）の運営訓練
富山県庁	DPSOL 内閣府	・原子力災害対策本部等の設置運営訓練
富山県環境科学センター （射水市、氷見市内）	大飯原子力 規制事務所	・緊急時モニタリング訓練
速川小学校	DPSOL(兼)	・住民の屋内退避、一時移転訓練 ・安定ヨウ素剤の配布訓練
久目小学校	内閣府(兼)	・住民の屋内退避、一時移転訓練 ・安定ヨウ素剤の配布訓練
赤毛コミュニティセンター	DPSOL(兼)	・住民の屋内退避、一時移転訓練 ・避難退域時検査の実施訓練 ・安定ヨウ素剤の配布訓練
仏生寺公民館	DPSOL(兼) 内閣府	・避難退域時検査の実施訓練
ふくおか総合文化センター	DPSOL(兼) 内閣府(兼)	・避難所の設置・運営訓練
東部公民館	DPSOL(兼)	・避難所の設置・運営訓練
富山県立中央病院	広島大学	・被ばく医療措置訓練
老人保健施設エルダーヴィ ラ氷見	防災・危機 管理課(兼)	・住民の屋内退避、一時移転訓練
特別養護老人ホーム つまま園	防災・危機 管理課(兼)	・住民の屋内退避、一時移転訓練
氷見市内（谷屋地内）	DPSOL(兼)	・複合災害対応訓練

※DPSOL：(株) 総合防災ソリューションの略称

## 2 訓練項目別評価結果の概要

### (1) 富山県現地災害対策本部及び志賀オフサイトセンターの運営訓練

#### ○成果

- ・自己評価として、機能班の活動内容を理解することができたこと及び今年度から新たに導入されたクロノロジーシステムによる情報共有の方法を確認できたことが挙げられている。
- ・外部評価として、各機能班の要員が自身の業務内容を理解し、関係機能班や富山県災害本部との調整・報告が適切になされていたことが成果として挙げられている。

#### ●課題

- ・自己評価として、関係機関との情報共有は、富山県現地本部においては紙媒体を利用し、志賀オフサイトセンターの各機能班においては、原子力防災システム（N I S S）による電子上の情報共有を実施しており、訓練を実施する上で情報共有の在り方に課題があったとの指摘がされている。
- ・外部評価として、富山県現地災害対策本部の専任の要員が1名であり、県ブースとして適切な活動をする上では要員数が不足していることが課題として挙げられている。

### (2) 緊急時通信連絡訓練

#### ○成果

- ・自己評価として、市町村へのFAX送信用紙に「受信した場合はF A Xと電話で連絡ください。」との表記があったため、円滑に受信確認をすることができたことが成果として挙げられている。

#### ●課題

- ・自己評価として、県庁大ホールのコピー機やF A Xの動作が遅かったため、円滑な作業の阻害要因となっていたことが課題として指摘されている。

### (3) 原子力災害対策本部等の設置運営訓練

#### ○成果

- ・自己評価として、トリガーとなる時程のみを示したブラインド方式のロールプレイング型の訓練であり、かつ付与カードで提示される状況や問い合わせ等が具体的であったことから、実際に災害が発生した場合に必要な情報や調整内容を自ら検討する訓練となり、成果として実災害時をイメージできたとする意見が挙げられている。
- ・外部評価として、多くの関係機関が参加した図上訓練であったことから、機関相互の理解と関係の強化につながったこと。また、頻度の高いリエゾン会議で認識統一が図られたことで組織的な活動がなされたことが成果として挙げられている。

#### ●課題

- ・自己評価として、地域防災計画で一部関係機関に通報がFAXされていないことや、交通規制や医師・薬剤師の派遣手続きにおいて運用方法の検討が必要であると指摘されている。
- ・外部評価として、本訓練は原子力災害対応における基本的な活動を行うために、想定や参集範囲を限定して行っていることを理解したうえで、主体的な活動が行えるような状況付与や実編成に近い体制など、災害時における組織的業務について、より習熟させるための工夫が必要と指摘されている。

#### (4) 緊急時モニタリング訓練

##### ○成 果

- ・自己評価として、緊急時モニタリングセンター（EMC）や県緊急時モニタリング班からの指示書に基づき、放射線量の測定、可搬型モニタリングポストの設置、環境試料の採取などの一連の手順を確認することができたことが成果として挙げられている。
- ・外部評価として、測定分析拠点及び現場における測定チームの間で、各種システムを用いた情報共有が適切になされていたことにより、指示書に基づく緊急時モニタリング活動が適切になされていたことが成果として挙げられている。

##### ●課 題

- ・自己評価として、災害時には交代要員が必要になることから、モニタリングに関する人材育成を計画的に行う必要があるとの課題が挙げられている。
- ・外部評価として、時間の制約上、EMCの活動とリンクしない形でのモニタリング活動であることに理解を示しながらも、EMCで入手した情報（プラント状況、道路状況、気象等）を適宜現場活動に反映するような、より高度な訓練の検討が必要との指摘がなされている。

#### (5) 住民等に対する広報訓練

##### ○成 果

- ・自己評価として、広報車による住民広報において地区の地理や事情に精通した消防分団の協力が効果的であることを確認することができたとの意見が挙げられている。
- ・自己評価として、避難所での展示において、様々な出展内容を住民に十分に説明し、周知することができたこと、また、出展者においても相互に展示内容を見ることは新たな知見を得るうえで有効であったとの意見が挙げられている。

##### ●課 題

- ・自己評価および外部評価ともに、防災行政無線のスピーカーは住宅の位置等により、聞こえないことが確認でき、情報伝達手段の多重化について引き続き検討が必要との指摘がなされている。

#### (6) 避難所の設置・運営訓練

##### ○成 果

- ・自己評価として、避難所における市職員の誘導や案内表示が適切であったことから受付等の業務を円滑にすることができたことが成果として挙げられている。また、ふくおか総合文化センターの救護所において、感染症に対する隔離・診察・服薬指導の訓練を実施したことにより健康被害の最小化を図る取り組みがなされたことが成果として挙げている。
- ・外部評価として、地区毎に区分された受付や待機場所が、整齐とした避難所活動を行う上で有効であったとの意見が挙げられている。

##### ●課 題

- ・自己評価として、複数台のバスからの住民降車の際に、バス単位で誘導できなかったことから、通過証の確認が困難であったとする指摘がなされている。
- ・自己評価として、救護所における椅子や車いすの準備が不足していたとの指摘がなされている。

## (7) 住民の屋内退避、一時移転訓練

### ○成果

- ・自己評価として、一部の地区においては、実際の避難行動要支援者と支援者の協力を得ることができたため、対応方法について理解を深めることができたことが成果として挙げられている。
- ・自己評価として、放射線防護施設では、新たに整備した階段昇降機の操作方法等の退避行動に伴う一連の流れを理解することができたことが成果として挙げられている。
- ・外部評価として、訓練に参加した住民が雨カッパ、マスク、手袋の着用による防護措置が徹底されていたこと、また、一時集合場所、避難退域時検査及び避難所に配置された職員がよく任務を理解しており、適切な誘導ができていたことが成果として挙げられている。

### ●課題

- ・自己評価として、社会福祉施設では、屋内退避の際の職員数が少ないことを踏まえ、所内の避難先の変更など屋内退避の実施方法について改めて検討が必要との指摘がなされている。
- ・自己評価として、一時移転の指示が流れる前に一時移転を開始する住民がいたことから、訓練想定 of 徹底が課題であるとの指摘がなされている。
- ・外部評価として、一時集合場所における住民へのアナウンスが不足していたとの指摘がなされている。また、集合した住民に安心を与えるための情報提供方法について検討する余地があると指摘がなされている。

## (8) 交通誘導・警戒警備訓練

### ○成果

- ・自己評価として、防護服を着用しての活動など、発災時を想定した実践的な活動ができたことが成果として挙げられている。

### ●課題

- ・自己評価として、実災害時における具体的な交通誘導要領の検討及び人員の割り振りについて検討する必要があるとの課題が挙げられている。

## (9) 避難退域時検査の実施訓練

### ○成果

- ・自己評価として、車両の指定箇所検査から除染及び住民の指定箇所検査から除染といった一連の流れを確認することができたことが成果として挙げられている。特に住民の指定箇所検査においては、昨年度に比し、人員配置や場内アナウンスが改善されたことにより、円滑な対応をすることができたとする意見が挙げられている。
- ・外部評価として、避難退域時検査場所のレイアウトが適切に配置され、カーラーコーンやプラカード等により分かりやすい誘導ができていたため、円滑な検査対応ができていたことが成果として挙げられている。

### ●課題

- ・自己評価として、誘導用看板や検査記録用紙の改良など、資機材の整備が課題とする意見のほか、GM管の取り扱いや簡易除染（住民）の説明方法についてマニュアル等を改善する余地があるとの意見が挙げられている。

- ・外部評価として、仏生寺公民館において中型バスが当初予定していた侵入口から侵入しなかったことを踏まえ、代替案について検討が必要との指摘がなされている。

#### (10) 安定ヨウ素剤の配布訓練

##### ○成果

- ・自己評価として、関係者間で事前に安定ヨウ素剤の緊急配布業務の要領について確認ができたことで当日の円滑な活動に繋がったことが成果として挙げられている。
- ・外部評価として、安定ヨウ素剤の説明について住民からの相談があった際に、回答できる体制ができていたことが成果として挙げられている。

##### ●課題

- ・自己評価として、安定ヨウ素剤の説明時の音声が多聴でなかったため、音響設備等の改善をする必要があるとの意見が挙げられている。
- ・自己評価及び外部評価として、本訓練では慎重投与者が指定されていたが、今後自由に医師に相談できるような訓練設定をし、訓練の高度化を図る必要があるとの意見が挙げられている。

#### (11) 被ばく医療措置訓練

##### ○成果

- ・自己評価として、県立中央病院における救急外来での初めての実動訓練であったことから、患者搬送から初診までの流れ、線量測定タイミングについて理解することができたことが成果として挙げられている。また、富山大学附属病院の派遣チームと合同訓練を行えたことも成果として挙げられている。
- ・外部評価として、活動の中心となる医師のコントロール・声掛けが良く、的確な対応をできたことが成果として挙げられている。

##### ●課題

- ・自己評価として、富山大学附属病院からの派遣チームの放射線技師が直接訓練に参加できなかった事例を挙げ、訓練参加人数に応じた症例数の設定が必要であるとの意見が挙げられている。
- ・外部評価として、傷病者の受け入れ準備の際の医療従事者以外の事務員等の役割が重要であることから、受け入れ準備に必要な人員数を確認のうえ確保することが今後の課題であるとの指摘がなされている。

#### (12) 複合災害対応訓練

##### ○成果

- ・自己評価として、道路復旧訓練の機会が少なく、本訓練を通して一連の流れを確認できたことが成果として挙げられている。
- ・外部評価として、避難経路として使用できるよう、短時間で道路を復旧できたこと及び安全確認のために車両を通過させて確認を行ったことが良好な活動であったとされている。

##### ●課題

- ・自己評価として、実災害を想定した場合、資材や機材については当日の運用状況により配置が異なるため、運用可能数の把握を如何にするかが課題として挙げられている。